

学校や幼稚園・保育園など特定の場面で言葉を発することができない場面緘黙。そんな子どもたちにどう手助けすればいいのかを話し合うシンポジウムが、14日、東京で開かれました。当事者、保護者、教員ら320人余りが全国から集まりました。

(田村三香子)



会場いっぱいに参加者が集まった場面緘黙シンポジウム＝14日、東京都文京区

場面緘黙児支援へシンポ

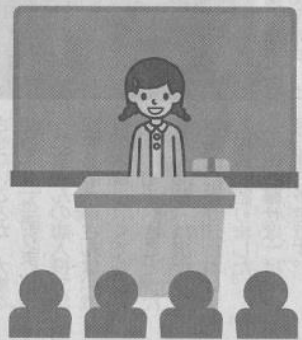
4人のパネリストが、参加者からの質問に答えました。

「場面緘黙の原因は何か、治るのか」という問いに、shizuさんが答えます。場面緘黙経験者で息子も場面緘黙児の自閉症療育アドバイザーです。「不安障害の一種なので、原因は不安。スモールステップという、小さな成功経験の積み重ねることになるのでは」

失敗も力に

小学6年の当事者から「今やるべきことは何ですか」との問いかけがありました。元場面緘黙児の保護者で『なっちゃんの声』などの著書がある、はやしめぐさんが「まず自分の不安のレベルを知

いつか話せる日がくる



り、不安のレベルの低い事柄にチャレンジすること。チャレンジを繰り返すことにより緊張が減り、できることが増えて自信が増します」と励ましました。大橋さんは「私自身、話したいと思いつながりませんでした。自分をたわわり気晴らしをすることも必要。失敗することも多いが、失敗も力になります」。

保護者からは、親としての支援について質問が寄せられました。shizuさんは「口角」をあげていきましよう、です。口の端を上げて表情筋を笑顔にして脳をたまたして幸せな気持ちに。毒キノコのようにマイナスの胞子を降らせるよりも、太陽のような親になりましよう。私の母は、いいオーラ(雰囲気)を

の周りでは元気に遊んでいました。それで克服できたのかもしれない」。

マイペース

主催したかんもくネットの代表で臨床心理士の角田圭子さんは「家では話す子が多いです。その子がどう話しているのか、とくに、困ったときに言葉で気持ちを収める

ことができるかどうかが大切です」と述べました。

思春期を過ぎた場面緘黙の子どもへのアドバイザーとして、角田さんは次のように言いました。

「家で家事をすること、メールの仕方を教えること、自動車の免許をとること。また、趣味を持って友達と付き合うのが楽しいという経験を持つことが発話に向かうことにつながると思います」

「18歳で周りが進学・就職して一気にハードルが上がる」というのは大橋さん。「でも、いま自分ができることをベースを変えずに積み重ねていくことがいい。将来のことよりも目の前のこと

挑戦重ね ↓ 緊張減り ↓ 自信アップ

※新聞社に著作物使用の許諾を得て掲載しています。

かんもくネット